

令和8年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省）
島根県（公立）の結果概要

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

（1）国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

ア 小学校調査

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

イ 中学校調査

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

（2）障がいのある児童生徒については、各学校の判断により、当該児童生徒の障がいの種類や程度に応じて、調査時間の延長、点字、拡大文字、ルビ振り問題の使用、代理解答、別室の設定、及び英語「話すこと」調査におけるスクリプト表示問題などの配慮を可能とする。ただし、特別支援学校及び小・中学校等の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、以下のア又はイの事由がある児童生徒は当該事由に係る教科について、ウの事由がある生徒は英語「聞くこと」及び「話すこと」について、原則として調査の対象としない。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている場合

イ 知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている場合

ウ 右耳・左耳それぞれの平均聴力レベルが60デシベル以上であって、英語「聞くこと」及び「話すこと」の調査の実施が難しいと判断される場合

（3）日本語指導が必要な児童生徒については、各学校の判断により、調査時間の延長、ルビ振り問題の使用などの配慮を可能とする。また、国語、算数・数学又は英語の時間に日本語指導のための取り出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。

3 調査実施日・方式・教科等

校種	実施日	方式	教科等
小学校	令和8年4月23日（木） 後日実施：令和8年4月24日（金）～ 4月30日（木）	冊子による 筆記方式	国語・算数
	令和8年4月24日（金）～5月8日（金）の うち、指定された実施日 後日実施：調査実施日翌日～5月8日（金） （学校外でオンライン実施可）	オンライン （MEXCBT）	児童質問調査

校種	実施日	方式	教科等
中学校	令和8年4月23日（木） 後日実施：令和8年4月24日（金）～ 4月30日（木）	冊子による 筆記方式	国語・数学
	令和8年4月20日（月）～4月23日（木） のうち、指定された実施日 予備日：4月24日（金） 後日実施：令和8年4月27日（月）～ 5月1日（金）（学校外でオンライン実施可）	オンライン （MEXCBT）	英語「聞くこと・読む こと・書くこと」
	当日実施：令和8年4月24日（金）・ 27日（月）（全国から500校抽出） 期間内実施：令和8年4月28日（火）～5月 29日（金）のうち、指定された実施日（期間 内実施に限り、学校外でオンライン実施可）		英語「話すこと」
	令和8年4月20日（月）～4月23日（木） のうち、指定された実施日 予備日：4月24日（金） 後日実施：令和8年4月27日（月）～ 5月8日（金）（学校外でオンライン実施可）	オンライン （MEXCBT）	生徒質問調査

4 調査事項

（1）児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

（ア）小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。

（イ）国語及び算数・数学は、冊子を用いた筆記方式（「PBT」＝Paper Based Testing）で実施する。英語は、生徒が活用するICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステムによるオンライン方式（「CBT」＝Computer Based Testing）で実施する。ただし、2（2）の点字問題については、冊子を用いることを基本とするが、英語「話すこと」の解答についてはCBTで実施する。

（ウ）出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(エ) 出題形式について、記述式の問題を一定割合で出題する。英語「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式とする。

(オ) 英語の出題には、学力の状況や変化を正確に把握することを主目的とする非公開問題を含む。

イ 質問調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問調査」という。）を、児童生徒が活用する ICT 端末等を用いて CBT で実施する。ただし、2（2）の点字問題については、冊子を用いることを基本とする。

(2) 学校質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査（以下「学校質問調査」という。）をオンラインによる回答方式で実施する。

5 県内公立学校で調査を実施した学校数・児童生徒数

【小学校等】市町村立小学校 175 校、義務教育学校前期課程 2 校及び県立特別支援学校小学部 2 校

小学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施児童数
公立学校合計	179	179（100%）	5,169 人

【中学校等】市町村立中学校 87 校、義務教育学校後期課程 2 校及び県立特別支援学校中学部 2 校

中学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施生徒数
公立学校合計	92	91（99%）	4,907 人

II 公表について

1 公表の内容

(1) 島根県及び全国の教科に関する調査の結果（英語は 3 技能「聞くこと・読むこと・書くこと」）

(2) 島根県及び全国の質問調査の結果

児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況

2 公表結果に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であること。

中学校英語については、IRT（項目反応理論）方式で実施。学校（自治体）ごとの結果は、IRT スコア（IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点）で表示し、個人の結果は 5 段階の IRT バンドで表示する。

3 その他

島根県教育委員会のホームページ及びしまねの教育情報 Web(EIOS)に公表資料を掲載

Ⅲ 教科に関する調査の結果

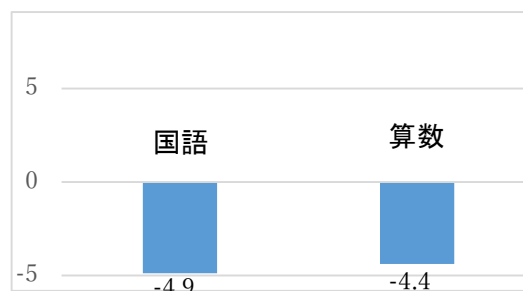
1 結果の概要（島根県と全国の平均正答率との比較）

- （１）中学校国語の平均正答率は全国平均並みであった。
- （２）小学校国語、算数、中学校数学の平均正答率、中学校英語３技能（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）の IRT スコアは全国平均を下回った。
- （３）小学校国語では、全ての内容項目について全国平均を下回った。「情報の扱い方に関する事項」は年々、全国平均との差が広がっている。
- （４）小学校算数では、全ての領域において全国平均を下回った。
- （５）中学校国語では、「情報の扱い方に関する事項」と「話すこと・聞くこと」は全国平均並みで、「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「書くこと・読むこと」は全国平均を下回った。
- （６）中学校数学では、全ての領域において全国平均を下回った。特に「関数」は全国との差が大きい。
- （７）中学校英語の IRT バンド分布グラフは、全国と比較すると「２」の割合が高く、「４」「５」の割合が低かった。

2 各教科の平均正答率・IRT スコア

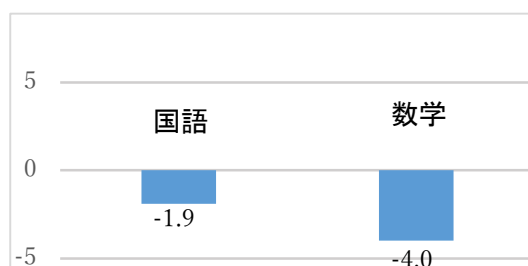
【小学校（国語・算数）】

	平均正答率（％）		
	島根県	全国（公立）	差
国 語	56	60.9	-4.9
算 数	52	56.4	-4.4



【中学校（国語・数学）】

	平均正答率（％）		
	島根県	全国（公立）	差
国 語	62	63.9	-1.9
数 学	53	57.0	-4.0

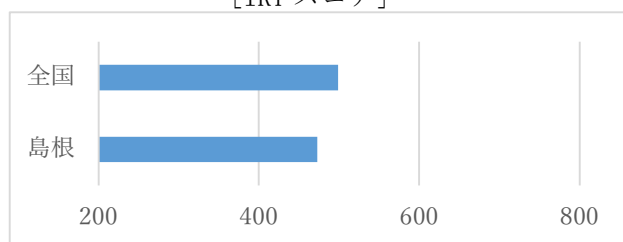


【中学校（英語）】

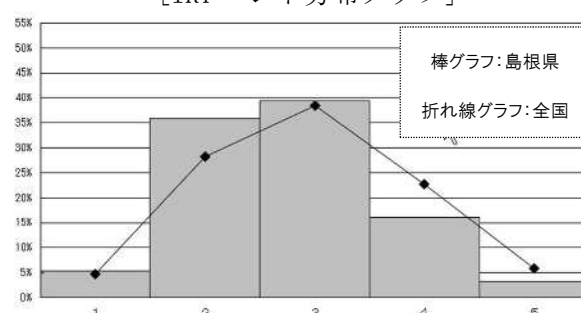
	IRT スコア		
	島根県	全国（公立）	差
英語	473 ※	499	-26

※ 3 技能

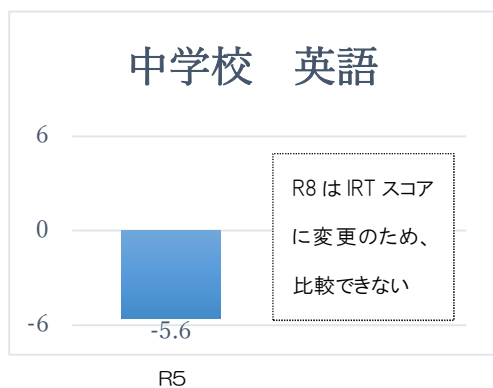
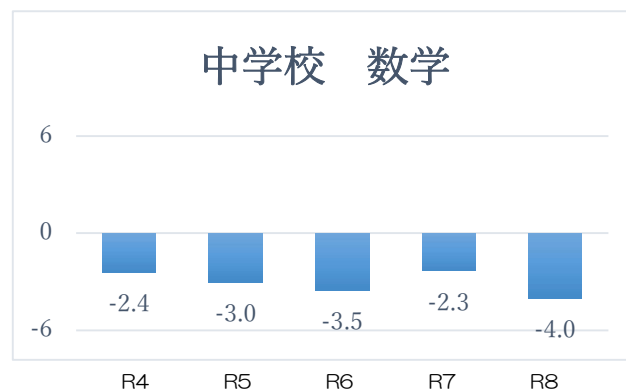
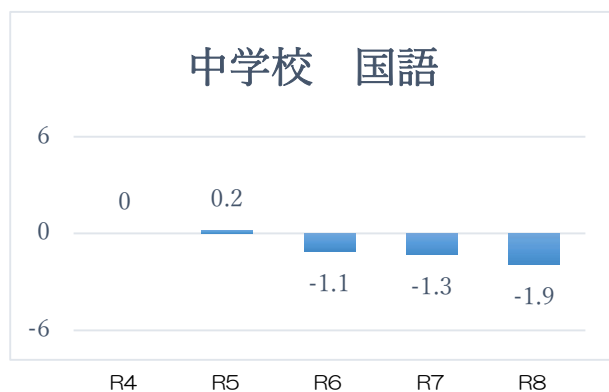
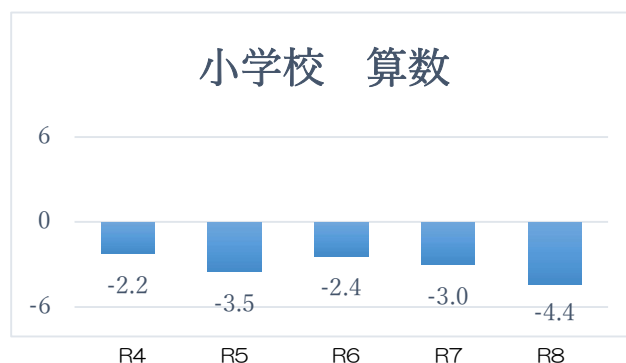
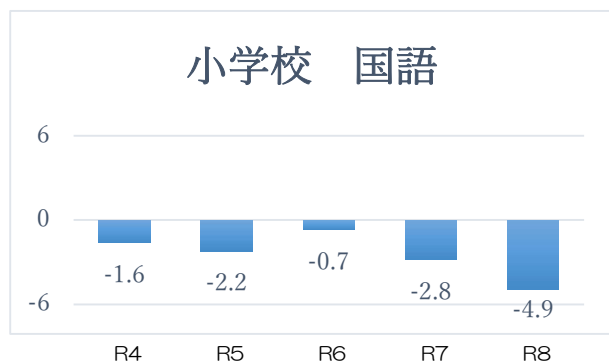
[IRT スコア]



[IRT バンド分布グラフ]



【参考】各教科の正答率の全国との差（経年変化）



英語はR 4、R 6、R 7は実施なし

3 各教科の正答数分布グラフ及び分類・区分別集計結果

【小学校 国語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

【これまでの課題】

A 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことに課題が見られる。

B 「書くこと」において、内容のまとまりや段落相互の関係に注意して文章構成を考えることに課題が見られる。

【本調査の状況】

・ 県平均正答率は 56%であり、全国平均を下回っている。

・ 全ての内容項目について全国平均を下回っている。

・ 「情報の扱い方に関する事項」は年々、全国平均との差が広がっている。

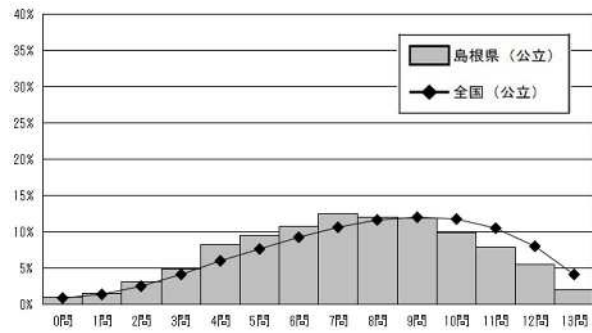
①筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができている。

②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができている。

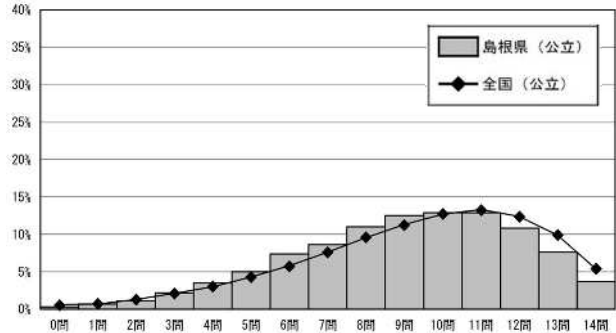
①学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことに課題が見られる。

②情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことに課題が見られる。・・・A

1 正答数分布グラフ [R8]



【参考】[R7]



2 分類・区分別集計結果 [R8]

学習指導要領 の内容	対象 設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
言葉の特徴や使い方に 関する事項	4	61.6	66.8	-5.2	△
情報の扱い方に関する 事項	2	45.8	52.3	-6.5	△
我が国の言語文化に関 する事項	0				
話すこと・聞くこと	3	61.2	65.8	-4.6	△
書くこと	2	41.9	45.7	-3.8	△
読むこと	2	62.3	65.9	-3.6	△

【参考】[R7]

学習指導要領 の内容	対象 設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	76.7	76.9	-0.2	—
情報の扱い方に関する 事項	1	59.0	63.1	-4.1	△
我が国の言語文化に関 する事項	1	79.6	81.2	-1.6	—
話すこと・聞くこと	3	63.4	66.3	-2.9	△
書くこと	3	66.2	69.5	-3.3	△
読むこと	4	55.5	57.5	-2.0	△

○：県が全国を2ポイント以上、上回るもの —：県と全国の差が2ポイント未満のもの △：県が全国を2ポイント以上、下回るもの（以下同じ）

3 成果の見られる問題2問

〔問題番号〕 2	一「書くこと」→① 〔島根県値 56.7%〕〔全国値 57.9%〕 〔問題内容〕 花山さんの文章の工夫を説明したも のとして適切なものを選択する。
〔問題番号〕 3	三（2）「読むこと」→② 〔島根県値 74.4%〕〔全国値 76.0%〕 〔問題内容〕 【文章】を読んで考えたことを、自分 の経験と結び付けてまとめて書く。

課題のある問題2問

〔問題番号〕 2	三イ「言葉の特徴や使い方に関する事項」→① 〔島根県値 35.1%〕〔全国値 45.2%〕 〔問題内容〕 「花山さんの文章の一部」の下線部イを 漢字を使って書き直す（ふしぎ）。
〔問題番号〕 3	二「情報の扱い方に関する事項」→② 〔島根県値 47.5%〕〔全国値 55.6%〕 〔問題内容〕 「林さんのメモ」にどのように整理した のかを説明したものとして適切なもの を選択する。

【小学校 算数】

・：概要 ○：成果 ●：課題

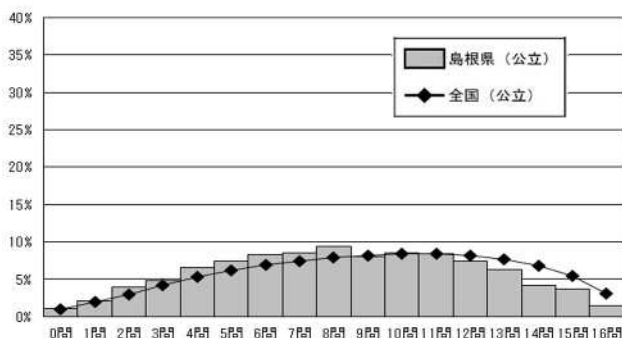
【これまでの課題】

- A 「図形」において基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述することに課題が見られる。
- B 「数と計算」において分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題が見られる。

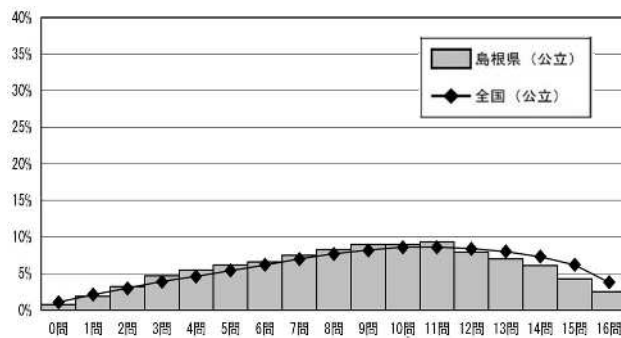
【本調査の状況】

- ・高正答率者が全国と比較して少ない。
 - ・県平均正答率は52%であり、全国平均を下回っている。
 - ・全ての領域において全国平均を下回っている。
- ①「数と計算」において小数や整数の相対的な大きさについて理解できている。
- ②「図形」において立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解できている。
- ❶「図形」において体積の基準となる単位について理解し、それらを用いて体積を表すことについて課題が見られる。
- ❷「変化と関係」において基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることについて課題が見られる。

1 正答数分布グラフ [R8]



【参考】[R7]



2 分類・区分別集計結果 [R8]

学習指導要領 の領域	対象 設問数 ※	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
数と計算	8	56.6	61.1	-4.5	△
図形	4	49.9	55.3	-5.4	△
測定	1	74.3	78.1	-3.8	△
変化と関係	3	35.8	41.1	-5.3	△
データの活用	4	43.9	48.6	-4.7	△

【参考】[R7]

学習指導要領 の領域	対象 設問数 ※	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
数と計算	8	59.9	62.3	-2.4	△
図形	4	53.4	56.2	-2.8	△
測定	2	52.5	54.8	-2.3	△
変化と関係	3	54.4	57.5	-3.1	△
データの活用	5	59.6	62.6	-3.0	△

3 成果が見られる問題2問

- [問題番号] ③ (1)「数と計算」→①
[島根県値 94.6%][全国値 94.5%]
- [問題内容] 1、5、9の3枚のカードをあてはめてつくることのできる最も大きい数を書く。
-
- [問題番号] ① (1)「数と計算」→②
[島根県値 71.7%][全国値 72.7%]
- [問題内容] 一辺が8 cmの立方体の体積を求める式を書く。

課題のある問題2問

- [問題番号] ① (3)「図形」→❶
[島根県値 33.0%][全国値 40.1%]
- [問題内容] 1立方センチメートルの立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く。
-
- [問題番号] ② (4)「変化と関係」→❷
[島根県値 27.2%][全国値 34.2%]
- [問題内容] 赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ。

※グラフの設問数（16問）と分類・区分別集計結果の対象設問数（22問/R7）が一致しないのは、1つの設間に複数の学習指導要領の領域が含まれるため。

【中学校 国語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

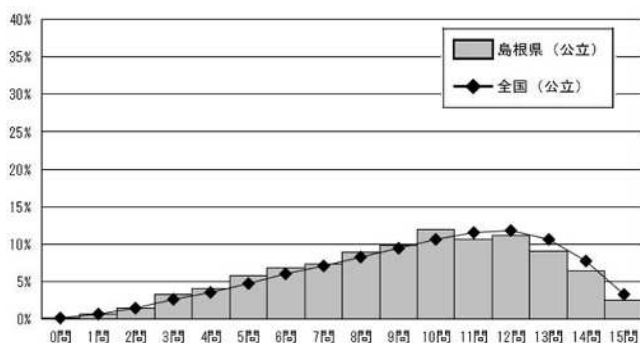
【これまでの課題】

- A 文脈に即して漢字を正しく使うことに課題がある。
B 書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることに課題がある。

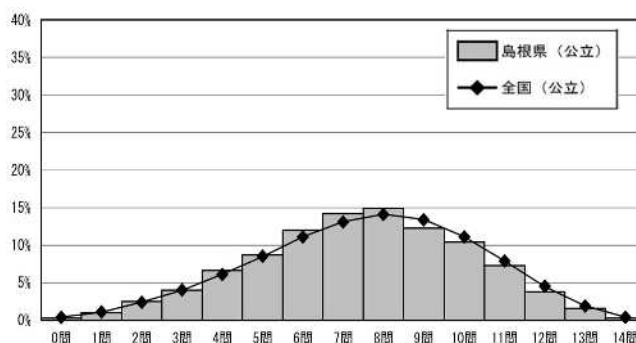
【本調査の状況】

- ・県平均正答率は62%であり、全国平均並みである。
- ・「情報の扱いに関する事項」と「話すこと・聞くこと」は全国平均並みで、「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「書くこと」、「読むこと」は全国平均を下回っている。
- ①互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができています。
- ②表現の効果を考えて描写することができています。
- ①文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことに課題がある。・・・A
- ②文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものにすることに課題がある。

1 正答数分布グラフ [R8]



【参考】[R7]



2 分類・区分別集計結果 [R8]

学習指導要領 の内容	対象 設問数	平均正答率（%）			
		島根	全国	差	
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	60.4	63.0	-2.6	△
情報の扱い方に関する事項	1	69.7	70.4	-0.7	—
我が国の言語文化に関する事項	0				
話すこと・聞くこと	3	62.4	63.9	-1.5	—
書くこと	3	65.2	67.4	-2.2	△
読むこと	3	57.2	59.7	-2.5	△

【参考】[R7]

学習指導要領 の内容	対象 設問数	平均正答率（%）			
		島根	全国	差	
言葉の特徴や使い方に関する事項	2	47.7	48.1	-0.4	—
情報の扱い方に関する事項	0				
我が国の言語文化に関する事項	0				
話すこと・聞くこと	4	51.8	53.2	-1.4	—
書くこと	5	52.1	52.8	-0.7	—
読むこと	3	60.8	62.3	-1.5	—

3 成果が見られる問題2問

- 【問題番号】② 四「話すこと・聞くこと」→①
[島根県値 53.4%] [全国値 52.7%]
【問題内容】話し合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く。
-
- 【問題番号】③ 二「書くこと」→②
[島根県値 92.6%] [全国値 92.3%]
【問題内容】気持ちにより伝わるように、表現を工夫して書く。

課題のある問題2問

- 【問題番号】③ 一「言葉の特徴や使い方に関する事項」→①
[島根県値 34.8%] [全国値 39.8%]
【問題内容】文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する（とる）。
-
- 【問題番号】④ 四「読むこと」→②
[島根県値 35.1%] [全国値 38.9%]
【問題内容】二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。

【中学校 数学】

・：概要 ○：成果 ●：課題

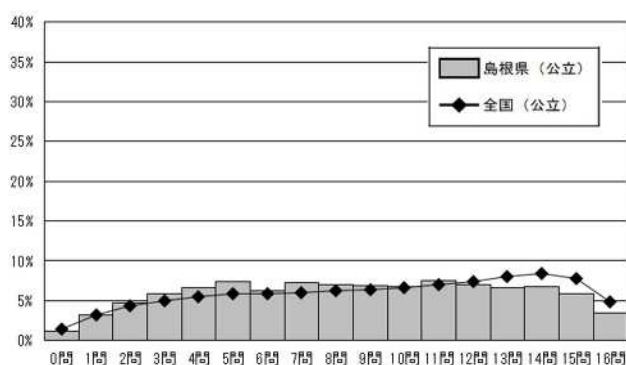
【これまでの課題】

- A 「数と式」において、文字を用いて数量を表すことに課題が見られる。
 B 「数と式」において、目的に応じて式を変形したり、理由を説明したりすることに課題が見られる。

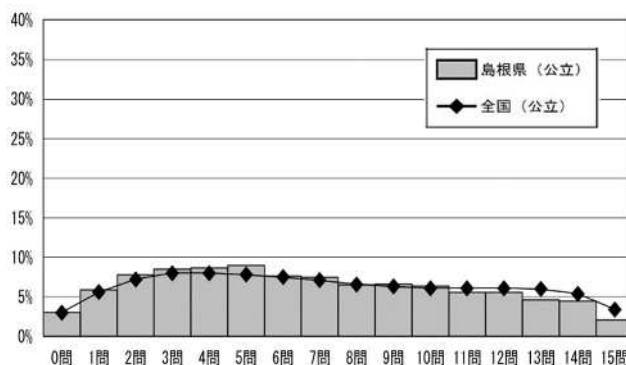
【本調査の状況】

- ・県平均正答率は53%であり、全国平均を下回っている。13問以上の正答者が全国と比較して少なく、5問から9問の正答者が全国と比較して多い。
 - ・全ての領域において全国平均正答率を下回っており、特に「関数」は全国との差が大きく、引き続き課題が見られる。
- ①「数と式」において、同類項の意味を理解し、ある項の同類項を選ぶことができています。
 ②「データの活用」において、箱ひげ図と四分位数の対応について理解し、求めることができています。
①「関数」において、反比例の関係を表す表から、 x の値に対応する y の値を求めることに課題が見られる。
②「データの活用」において、度数分布表から、ある階級の累積度数を求めることに課題が見られる。

1 正答数分布グラフ [R8]



【参考】[R7]



2 分類・区分別集計結果 [R8]

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率（％）		
		島根	全国	差
数 と 式	5	65.5	67.8	-2.3
図 形	4	44.8	48.7	-3.9
関 数	3	49.1	54.8	-5.7
データの活用	4	50.3	53.5	-3.2

【参考】[R7]

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率（％）		
		島根	全国	差
数 と 式	5	39.5	43.5	-4.0
図 形	4	44.3	46.5	-2.2
関 数	3	44.8	48.2	-3.4
データの活用	3	58.3	58.6	-0.3

3 成果が見られる問題2問

〔問題番号〕 ②「数と式」→①
 〔島根県値 71.5%〕〔全国値 70.5%〕
 〔問題内容〕 $7x + 9 - 5x + 7x^2 + 2x$ から、
 $7x$ の同類項をすべて書き出す。

〔問題番号〕 ⑨(2)「データの活用」→②
 〔島根県値 75.5%〕〔全国値 75.8%〕
 〔問題内容〕 学年別睡眠時間の箱ひげ図から、問題文
 にあてはまる2つの値を読み取り、その
 値が最小値、最大値、中央値、第1四分
 位数、第3四分位数のどれかを答える。

課題のある問題2問

〔問題番号〕 ④「関数」→①
 〔島根県値 47.6%〕〔全国値 55.3%〕
 〔問題内容〕 y が x に反比例する関係を表した表
 から、 $x = -3$ のときの y の値を求め
 る。

〔問題番号〕 ⑨(1)「データの活用」→②
 〔島根県値 39.5%〕〔全国値 46.0%〕
 〔問題内容〕 全校生徒の睡眠時間の度数分布表か
 ら、ある階級の累積度数を求める。

【中学校 英語】 ・：概要 ○：成果 ●：課題

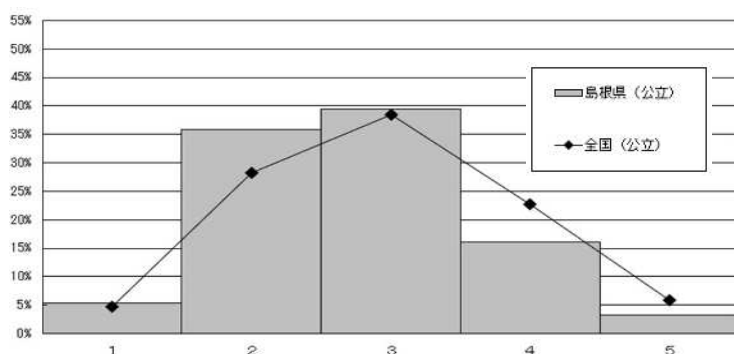
【これまでの課題】

- A 音声や語彙、表現、文法や言語などの働きなどを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する技能に課題がある。
- B 文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用し、正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に書くことに課題がある。

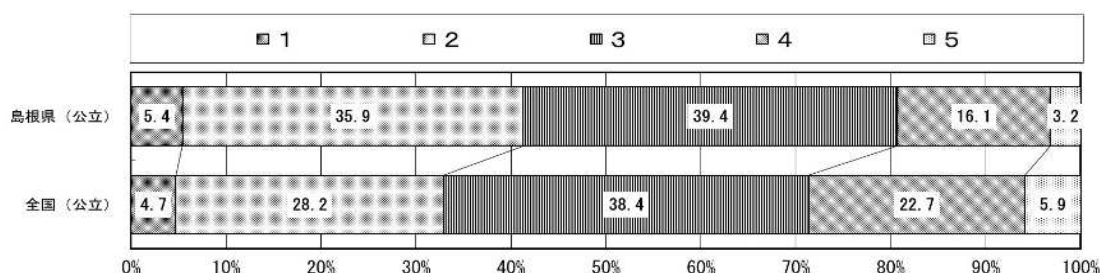
【本調査の状況】

- ・平均 IRT スコアは 473 である。
 - ・IRT バンド分布グラフは、全国と比較すると「2」の割合が高く、「4」「5」の割合が低い。
(高学力層が全国と比較して少ない。)
- ①日常的な話題について、まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を目的に応じて聞き取ることができる。
- ②日常的な話題について、簡単な英文で書かれた内容を正確に読み取ることができる。
- ①文法事項の知識を、実際のコミュニケーションの場面で活用することに課題がある。・・・A
- ②社会的な話題について書かれた英文を読んで、自分の考えを書くという複数の領域を統合して活用することに課題がある。また、無回答率も高い。

1 IRT バンド分布グラフ [R8]



IRT バンド分布比較



2 成果が見られる問題2問

- [設問番号] 2 「聞くこと」 → ①
[島根県値 78.0%] [全国値 78.5%]
[問題内容] ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する。
-
- [設問番号] 6 「読むこと」 → ②
[島根県値 65.4%] [全国値 67.3%]
[問題内容] 文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する。

課題が見られる問題2問

- [設問番号] 11①② 「書くこと」 → ①
[島根県値 48.9%] [全国値 58.9%]
[問題内容] 与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く。
-
- [設問番号] 10（1） 「書くこと」 → ②
[島根県値 38.2%] [全国値 47.5%]
[問題内容] インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する。

IV 児童生徒質問・学校質問調査の結果

〔児〇〕：令和8年度 児童質問調査項目〇番

〔学小〇〕：令和8年度 学校質問（小学校）調査項目〇番

〔生〇〕：令和8年度 生徒質問調査項目〇番

〔学中〇〕：令和8年度 学校質問（中学校）調査項目〇番

※紙面の都合上、一部質問調査項目は簡略化して記載しています。

1 第2期しまねの学力育成推進プランに関する質問調査項目

（1）基礎学力を育成する授業づくりの推進

①国語の勉強は好きだ〔児 53〕〔生 53〕

②算数・数学の勉強は好きだ〔児 61〕〔生 61〕

③英語の勉強は好きだ〔児 70〕〔生 70〕

④学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている〔児 43〕〔生 43〕

⑤授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う〔児 44〕〔生 44〕

①について

- ・昨年度に比べ、児童生徒の肯定的な回答の割合は中学校で増加、小学校で減少している。
- ・生徒の肯定的な回答の割合は全国値並みである。

②について

- ・昨年度に比べ、児童生徒の肯定的な回答の割合は増加している。
- ・生徒の肯定的な回答の割合は全国値並みである。

③について

- ・令和5年度に比べ、児童生徒の肯定的な回答の割合は小学校、中学校ともに減少している。
- ・児童生徒の肯定的な回答の割合は、全国値を大きく下回っている。

④⑤について

- ・昨年度に比べ、児童生徒の肯定的な回答の割合は中学校で増加、小学校で減少している。
- ・生徒の肯定的な回答の割合は全国値並みである。

（2）学習習慣の基盤を育む授業づくりの推進

⑥児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている〔学小 26〕〔学中 26〕

⑦授業では、児童〔生徒〕が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている

〔学小 30〕〔学中 30〕

⑧授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

〔児 39〕〔生 39〕

【家庭学習時間】

⑨学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）〔児 23〕〔生 23〕

⑩土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

〔児 25〕〔生 25〕

【メディア接触時間】

- ⑪普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などを行っているか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）〔児4〕〔生4〕

⑥について

- ・全国値と開きはあるが、経年で見ると肯定的な回答の割合は小中学校とも8割程度で例年度並みである。

⑦について

- ・全国値と大きな開きがあり、昨年度に比べ中学校で増加、小学校で大きく減少している。

⑧について

- ・昨年度に比べ、児童生徒の肯定的な回答の割合は、わずかに減少しているが、小中学校とも全国値並みである。

⑨について

- ・「1時間以上」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国値並み、中学校は全国値を5ポイント以上回っている。

⑩について

- ・「1時間以上」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国値を上回り、中学校は全国値並みである。

⑪について

- ・「1時間以上」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国値を上回り、中学校は全国値並みである。

（3）幼小中高の学びをつなぐ保育・授業づくりの推進

- ⑫総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている〔学小39〕〔学中39〕

- ⑬総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる〔児47〕〔生47〕

⑫⑬について

- ・肯定的な回答の割合が、学校質問調査で9割程度、児童生徒質問調査で8割程度と高い水準である。

（4）ICTを効果的に活用した授業づくりの推進

- ⑭5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していたか〔児35〕〔生35〕

- ⑮あなたの学校では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用していたか〔学小60〕〔学中68〕

⑭⑮について

- ・「ほぼ毎日」と回答した児童生徒、学校の割合は、全国値と大きな開きがある。
- ・島根県を経年で比較すると「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合は昨年度並みである。
- ・児童生徒と学校の回答結果に大きな開きがある。

(5) 多様な子供の主体的な学びを支える授業づくりの推進

- ⑬5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた 〔児41〕〔生41〕
- ⑭学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫する 〔学小31〕〔学中31〕
- ⑮前年度までに、調査対象学年の児童〔生徒〕に対する授業の中で、発達障がいを含む障がいのある児童〔生徒〕も含めた、多様な児童〔生徒〕が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体での指導の工夫を行っていたか 〔学小72〕〔学中80〕
- ⑯前年度までに、調査対象学年の児童〔生徒〕に対する授業の中で、発達障がいを含む障がいのある児童に対する個に応じた指導内容や指導方法の工夫として、当該児童が学習活動を行う場合に生じる「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた様々な「手立て」を講じていたか 〔学小73〕〔学中81〕

⑬⑭について

- ・8割程度の児童生徒、学校が肯定的に回答している。

⑮⑯について

- ・小中学校とも全国値との差が大きい。

2 今年度肯定的回答の割合が高かった質問項目

肯定的回答が9割を越えている又は全国値を上回っている項目から抽出

- (1)朝食を毎日食べている〔児1〕〔生1〕
- (2)毎日、同じくらいの時刻に起きている〔児3〕〔生3〕
- (3)先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う〔児9〕〔生9〕
- (4)人が困っているときは進んで助けている〔児11〕〔生11〕
- (5)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う〔児12〕〔生12〕
- (6)人の役に立つ人間になりたいと思う〔児14〕〔生14〕
- (7)友達関係に満足している〔児17〕〔生17〕
- (8)授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる〔児46〕〔生46〕

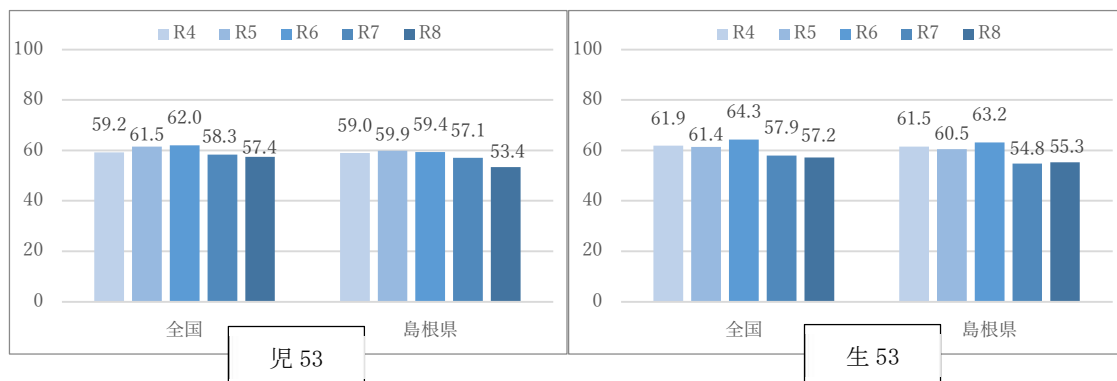
- ・基本的な生活習慣が身に付いていると考えられる。(1)(2)
- ・他者を思いやり、大切にすると心が育っていると考えられる。(3)(4)(5)(6)(7)(8)

3 まとめ

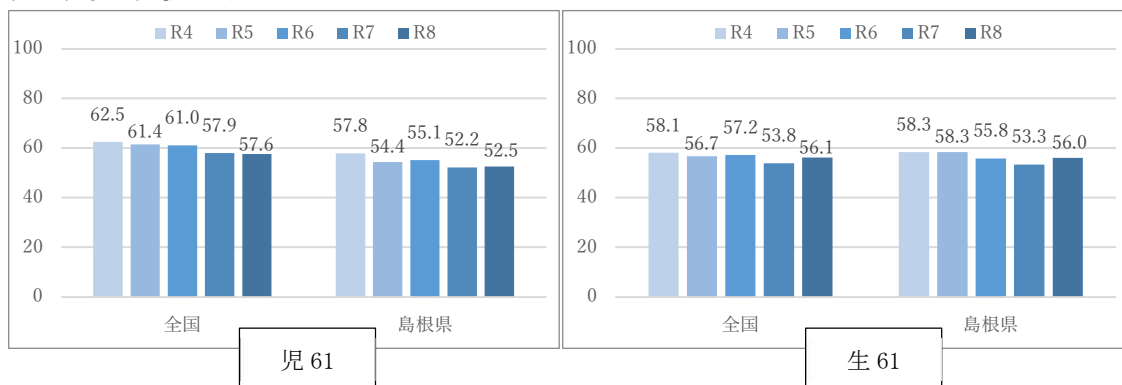
- ・朝食の摂取、起床時間などの基本的生活習慣に係る質問、また「先生は自分のよいところを認めてくれている」「人が困っているときは進んで助ける」等の思いやり、親切等の質問に対する肯定的回答の割合は、引き続き9割を越えており、児童生徒の生活習慣が定着し、思いやりの心が育っているとともに、教員の児童生徒一人一人に対する配慮が行き届いていることがうかがえる。
- ・児童生徒質問・学校質問調査の回答状況から、総合的な学習の時間等を通じた「探究の過程」を意識した学習について肯定的な回答の割合が高い。島根県が実施している「ふるさと教育」等を通じた課題を探究する継続的な取組によって効果が現れていると考えられる。しかし、児童生徒が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動については、今後、第2期しまねの学力育成推進プランの令和8年度重点アクション1で示す「全ての教科で大切にしたい”学びの過程”」を意識した授業づくり、児童生徒の主体性を引き出す指導を進める必要がある。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童生徒の割合は小学校で減少、中学校で増加している。めあてと振り返りを大切にした授業の推進を引き続き行うとともに、授業の学びと家庭学習をつなぐ指導の在り方について工夫し、家庭学習の充実を図る必要がある。その際、授業と家庭学習をつなぐ一人一台端末活用の検討を行い、教職員同士が共通理解を図り、家庭での学習方法について具体例を挙げながら指導する必要がある。特に中学校では、家庭学習の時間の設定を含め、生徒の家庭学習の意欲を高める個別のアドバイス、教員の支援が必要である。
- ・授業でのICT機器の活用については、依然として全国値との差は大きく、活用が進んでいない。第2期しまねの学力育成推進プラン令和8年度重点アクション3に示す「一人一台端末を活用した授業」の、「情報活用能力を育成する」、「クラウド環境を活用する」ことを中心に、児童生徒が一人一台端末を活用する場面を増やすことが急務である。「主体的・対話的で深い学び」の推進を通して授業改善を図る際、一人一台端末活用を重視した取組を県全体として進めていく必要がある。
- ・小学校児童、小学校管理職に対する質問項目の肯定的な回答の割合が昨年度から減少したり、全国値と比較して低かったりする質問項目が多い。管理職を含めた小学校に対する伴走支援について、県と市町村の協働の取組が必要である。

【Ⅳにあげた項目のグラフ】（青は児童生徒、緑は学校の回答）

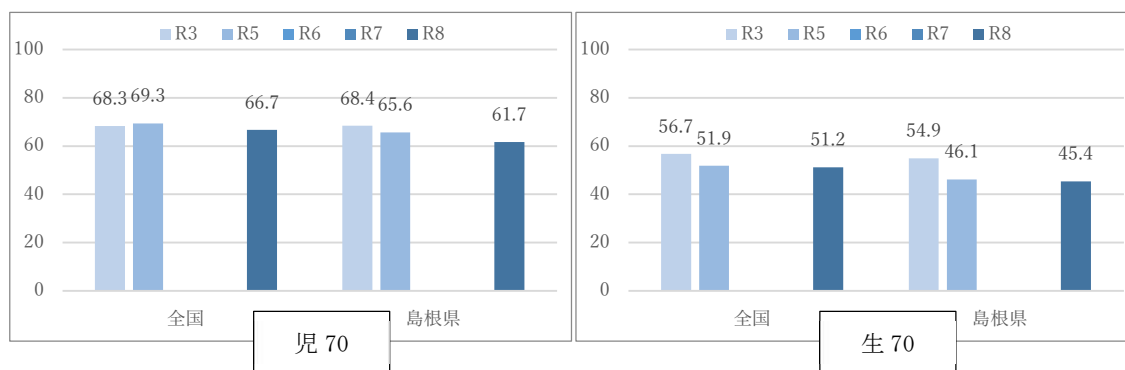
①国語の勉強は好きだ



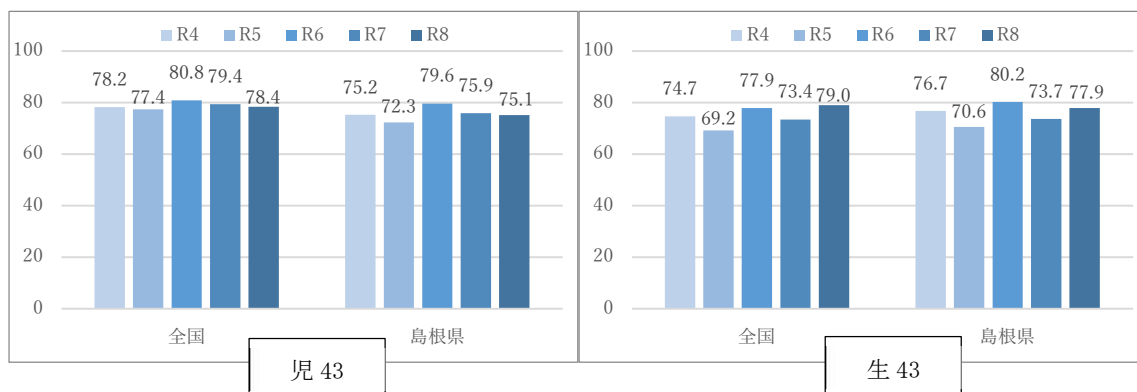
②算数・数学の勉強は好きだ



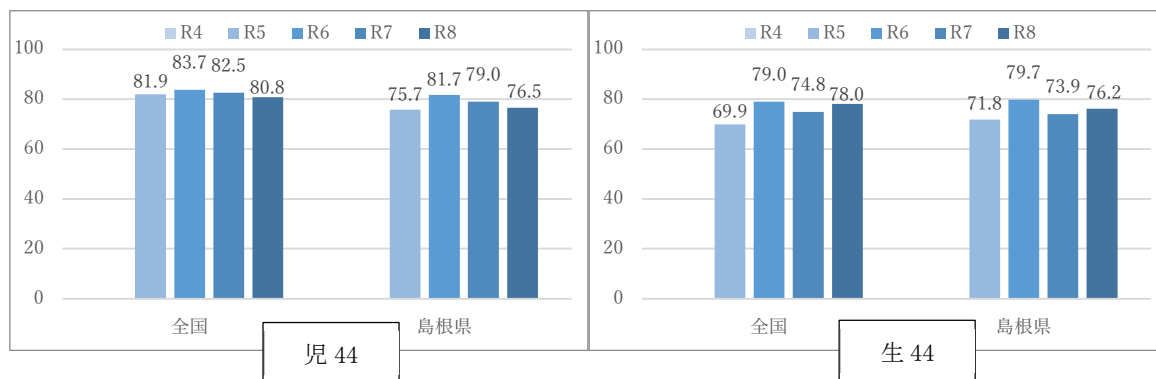
③英語の勉強は好きだ



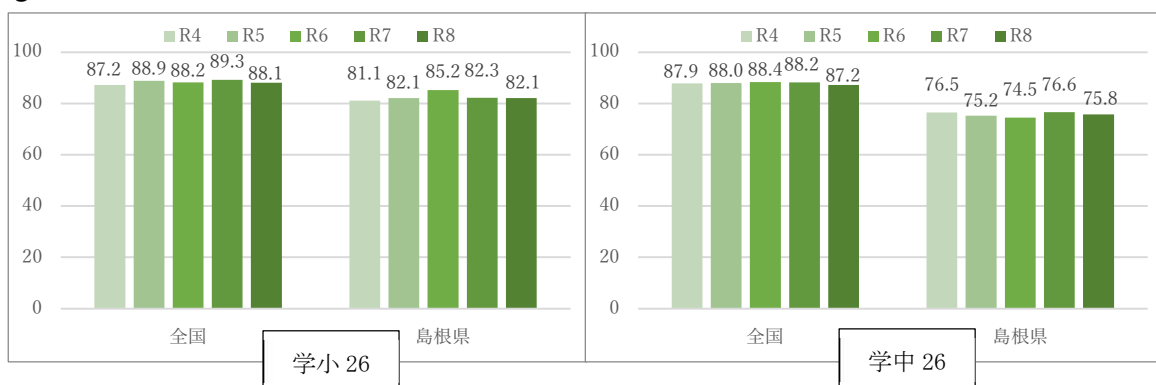
④学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる



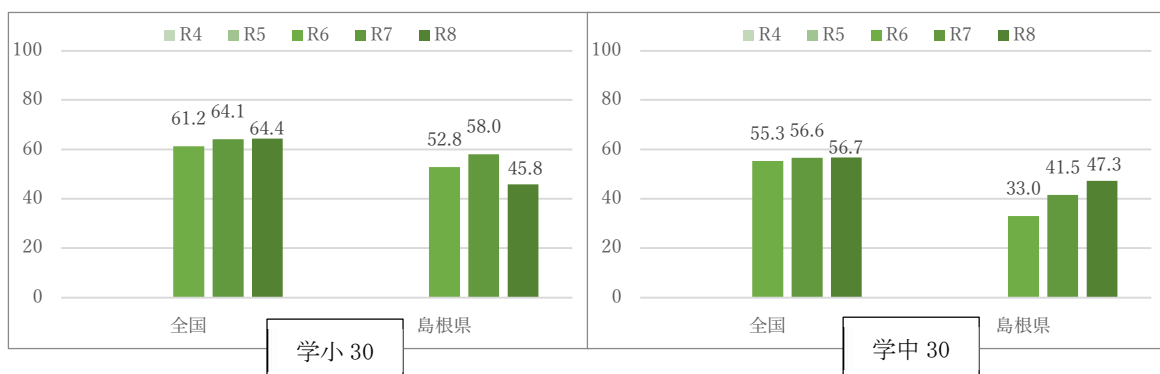
⑤授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う



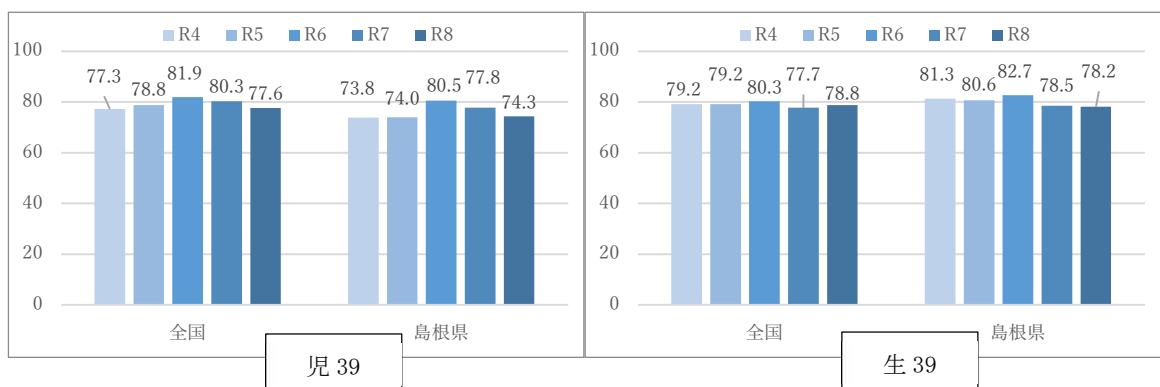
⑥児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる



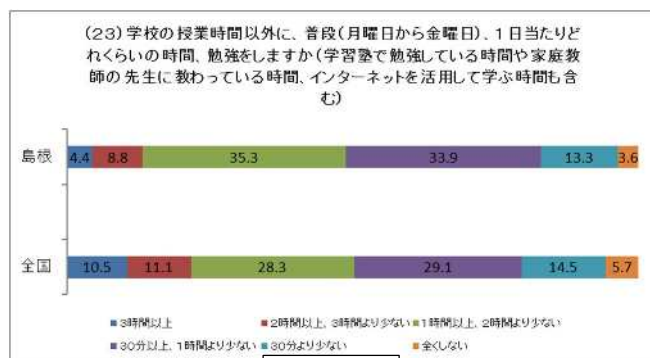
⑦授業では、児童〔生徒〕が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている



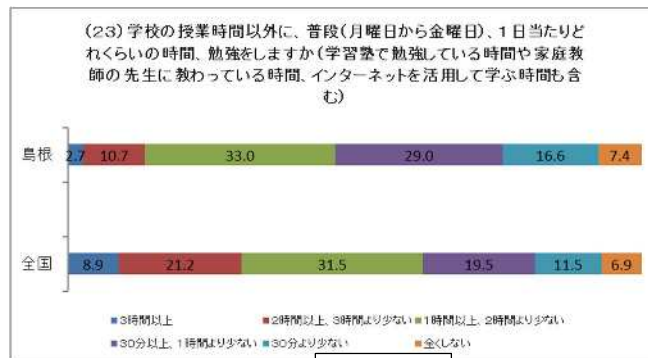
⑧授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



⑨学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

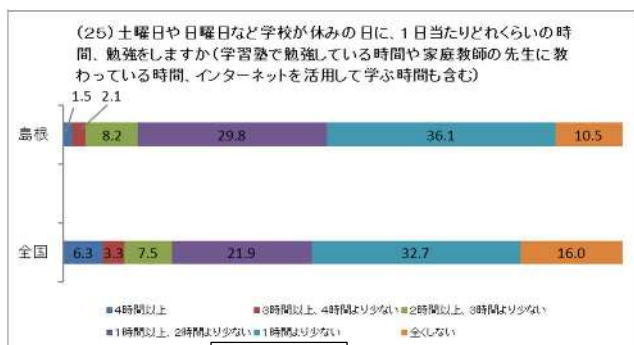


児 23

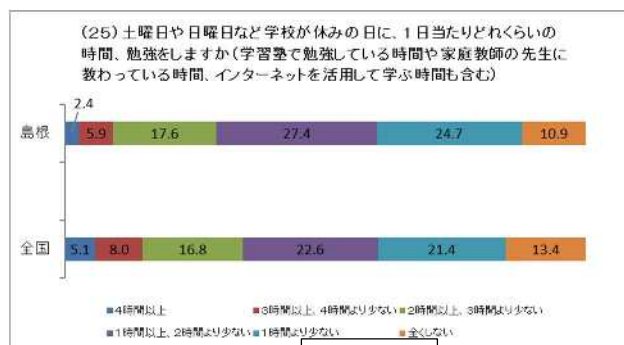


生 23

⑩土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

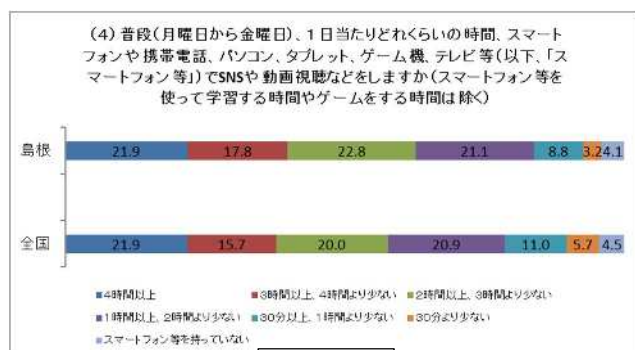


児 25

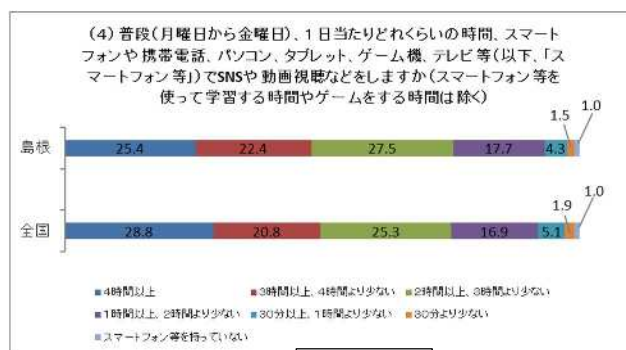


生 25

⑪普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）で SNS や動画視聴などをしているか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

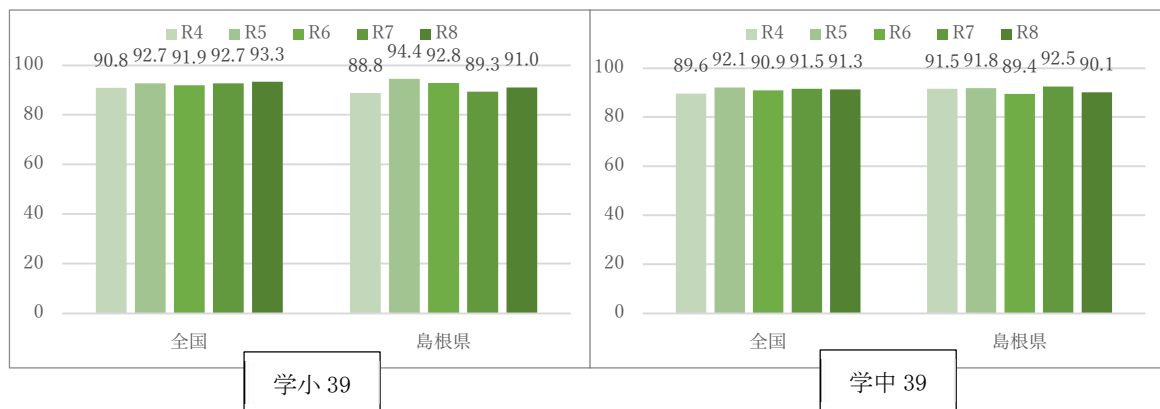


児 4

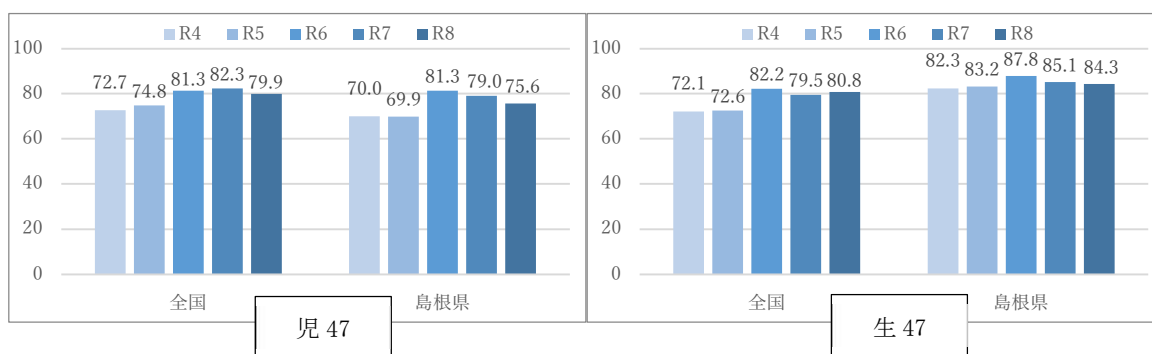


生 4

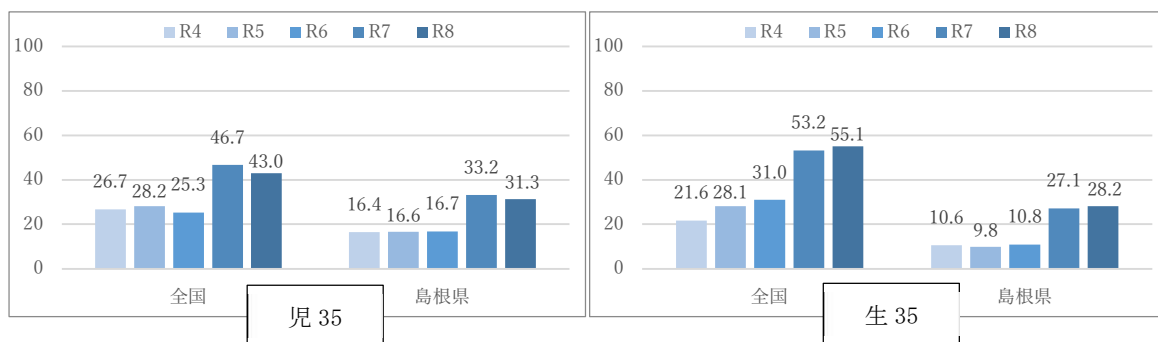
⑫総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている



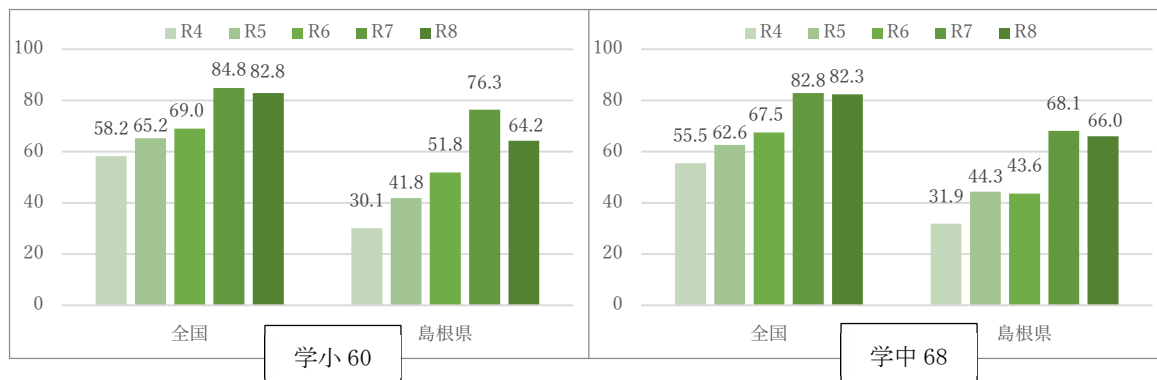
⑬総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



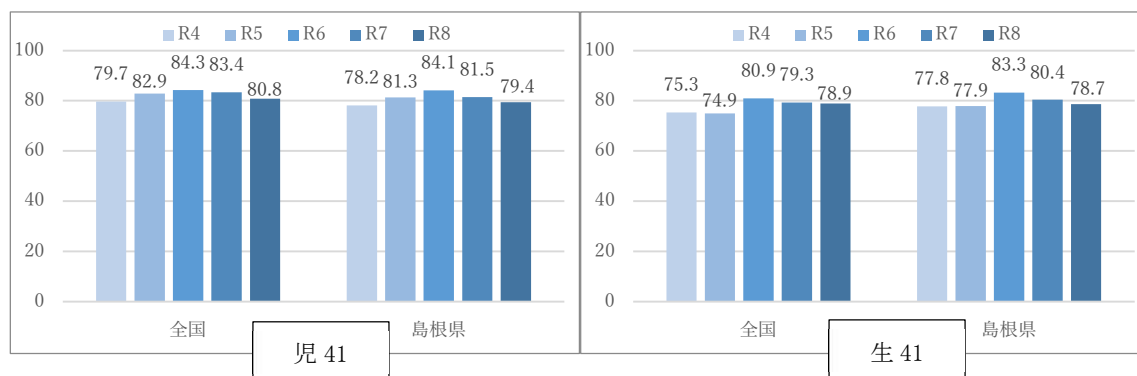
⑭5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していたか ※「ほぼ毎日」と回答した割合



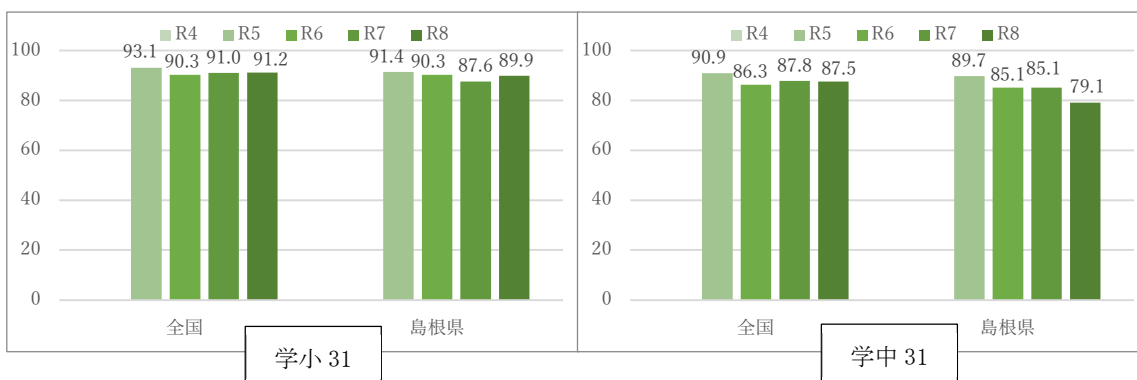
⑮あなたの学校では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用していたか ※「ほぼ毎日」と回答した割合



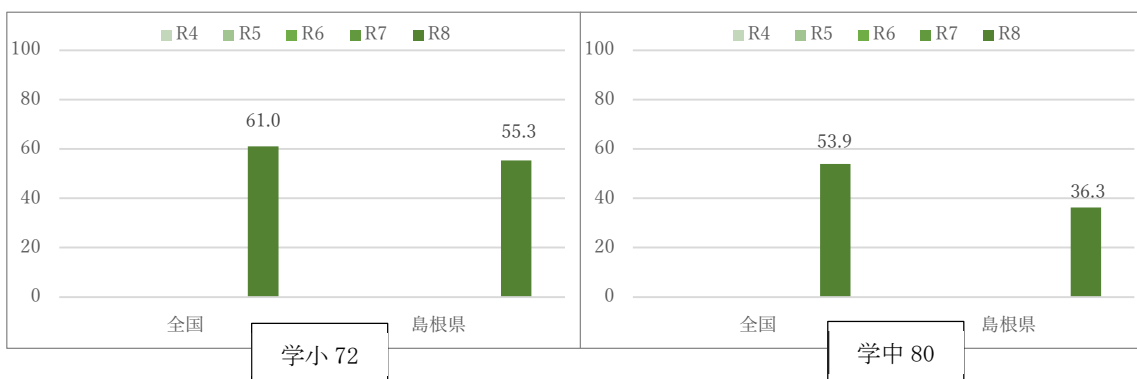
⑩5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた



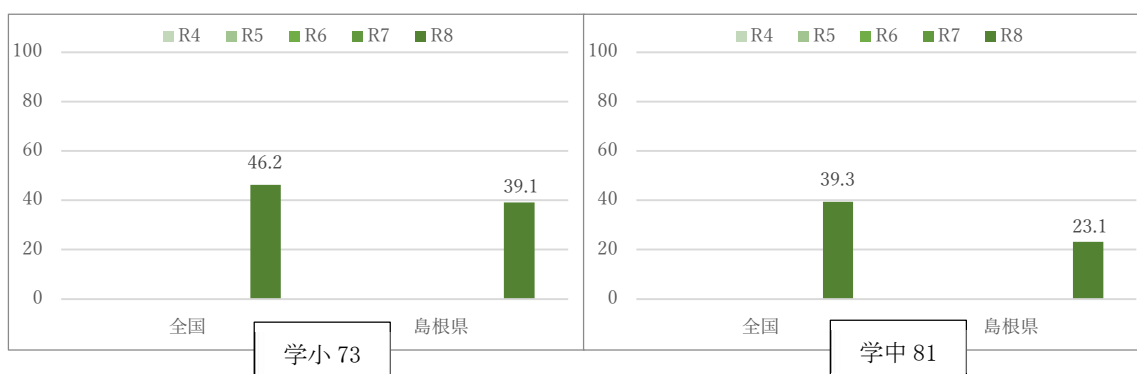
⑪学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫する



⑫前年度までに、調査対象学年の児童〔生徒〕に対する授業の中で、発達障がいを含む障がいのある児童〔生徒〕も含めた、多様な児童〔生徒〕が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体での指導の工夫を行っていたか



⑬前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、発達障がいを含む障がいのある児童に対する個に応じた指導内容や指導方法の工夫として、当該児童が学習活動を行う場合に生じる「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた様々な「手立て」を講じましたか



V 今後の取組

- 1 県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査の結果分析に基づき、第2期しまねの学力育成推進プランの令和8年度重点アクションを実行する。

アクション1 問題発見・解決能力を育む授業

- ・「学びの過程」として、①「問い」をもつ ②課題の設定 ③課題の追究 ④まとめ・表現 ⑤取組の振り返り・価値づけ、という流れの中で、学んだことを意味づけし、既得の知識や経験と、新たに得た知識を活用することで、「思考力、判断力、表現力等」を高める。また、児童生徒が自分で「学びの過程」を活用できるようにする。

アクション2 全国学力・学習状況調査を活用した授業改善

- ・全教員が全国学力・学習状況調査の問題を解き、ねらいや意図を丁寧に読み取ることで、学習指導要領が求める授業の具体像をイメージする。各設問が「学びの過程」のどの段階にあたるかを意識し、授業づくりの視点を得る。こうした分析に基づき、全教科・全学年で授業改善に向けた具体的な取組を進める。
- ・自校の調査結果の解答類型から児童生徒のつまずきの要因を把握し、授業改善策と評価方法を協議する。これらを踏まえて改善に向けた授業を実施し、具体的な評価問題等で改善状況を検証する。

アクション3 一人一台端末を活用した授業

- ・クラウド環境を活かし、自分の考えを分かりやすく伝え、リアルタイムに友だちと共有したり比べたりする、思考ツール等で情報を整理するなど学習場面を工夫し、情報活用能力を育成する。
- ・クラウド環境を活用して、めあて、振り返り、考えや発表をリアルタイムで共有や比較をし、主体的・対話的で深い学びを充実させる。
- ・各学校での改善を図るため、国が集約している好事例等を、教育情報紙やしまねの教育情報 Web 等を通じて情報提供する。

アクション4 子どもが学び方を選択できる授業

- ・肯定的な言葉がけによる多様さを認め合う風土づくり、発問・指示等の可視化、必要最小限の情報に絞った教室の整理整頓による学習に集中できる環境づくりを通して、ユニバーサルデザインの視点で誰もが学びやすい環境を整える。
- ・学び方や学びにくさの背景を探ったり、教職員同士で話し合ったり、子どもや保護者に尋ねたりすることで、授業に学びにくさはないか振り返る。
- ・達成可能な目標、学び方や進度、自分に合った理解や表現の手段など、学びのオプション（選択肢）を用意する。

2 県教育委員会の取組

- ・学力育成会議等で市町村と学力育成の取組について協議するとともに、各市町村・学校の取組や成果等を共有する。
- ・「全国学力・学習状況調査」、「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」、「英語教育実施状況調査」等で学力育成に係る市町村の状況を把握し、支援を行う。
- ・学校全体で組織的に授業改善が進められるよう、調査結果の分析方法や今後の取組の設定等について、学校訪問を通じた支援を行う。また、小学校理数教科指導力向上プロジェクトにおいては、小学校算数に関し、全国学力・学習状況調査の課題を分析し、授業や家庭学習で活用可能な評価問題や授業プランを提供する。
- ・小学校低学年段階からの学習のつまずきを把握し、授業改善や学習支援に生かすための「学びの基盤に関する調査」を実施し、学年・教科・単元等での指導・支援の事例を普及する。
- ・全国学力・学習状況調査から見られた課題に基づく今後の授業づくりのポイントについて、説明動画、各教科等の指導の重点及び授業チェックリストを作成し、各学校に配信・配付するとともにそれらの活用を促進する。